

日本語学習者が受けたい授業「これが日本です」

動画リンク: <https://www.youtube.com/watch?v=Bm249cs2zSY&feature=youtu.be>

今回は「日本語学習者が受けたい授業『これが日本です』」を学びながら、日本語を勉強しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。後半は少しだけ速く(+20%)なり、漢字に「ふりがな」はありません。学習にお役立てください。

外国の言葉を勉強するときは、その国の文化や、その国の人たちの習慣などを一緒に学ぶと、早く言葉を覚えることができます。

この動画は、日本語検定のN5～N4のレベルで制作されています。買い物、食事のマナー、日常、文化、季節、言葉と表現、仕事、交通事情の8つに分けてわかりやすく進めていきます。この動画は、17の言語で字幕設定もしていますので、学習にお役立てください。それではさっそく始めていきましょう。

■買い物

日本のコンビニはすごい

日本にいと、24時間営業のコンビニがあることが当たり前のように感じられますが、多くの外国人にとっては驚きの対象です。世界にはコンビニ自体が存在しない国も多く、24時間営業で温かい食べ物などを提供する店舗は非常に貴重です。さらに、日本のコンビニには銀行のATMやコピー機なども設置されており、非常に便利です。日本のコンビニの品揃え、価格、品質の高さに海外から来た人々は驚きを隠せません。

日本のデパ地下はすごい

海外の人々から「日本のコンビニは品質が高い」と評判ですが、さらに高い品質の食品を購入できるのがデパ地下です。デパ地下とは、デパートの地下を指します。伊勢丹、阪急、高島屋、三越、松坂屋、そごう、東急、小田急などのデパートが日本では有名です。デパートは百貨店という意味です。ほぼすべてのデパートの地下には食品売り場が集まっており、日本人から「デパ地下」と呼ばれ、多くの人に親しまれています。デパ地下で販売される食品は、コンビニで買うものよりも少し高価ですが、非常に新鮮で美味しいです。日本のデパ地下に行く際は、ぜひお腹を空かせて行ってください。きっと、日本の「デパ地下」のクオリティに驚き、感動することでしょう。

日本のドラッグストアはすごい

日本で有名なドラッグストアといえば、ウエルシアやマツモトキヨシです。日本のドラッグストアには何でも揃っていてすごい！と感動する外国人が多いようです。特に、365日24時間営業のウエルシアO-GUARD新宿店は毎日多くの外国人観光客が訪れます。この店舗の前を1日に6万人の人々が通ります。1階の入り口付近にはお弁当や惣菜、お菓子、飲料、お酒などを揃えたコンビニエリアがあり、医薬品エリアもあります。1階のレジ前には淹れたてコーヒーの販売機があり、

入り口近くの窓側にはイートインスペースも設置されています。「イートインスペース」は日本独自の和製英語であり、英語圏では通じませんが、日本ではよく使われる表現ですので覚えておくのが便利です。2階は主に化粧品エリアで、女性用だけでなく男性用の化粧品も取り扱っています。ウエルシアO-GUARD新宿店は、新宿駅西口に続く大通りと青梅街道が交差する交差点に位置する複合ビル「オーガード新宿」の1階と2階にあります。東京の新宿を訪れた際は、ぜひこの店舗に立ち寄り、お土産としてお菓子や化粧品を購入して楽しんでください。

■食事のマナー

食べる前に「いただきます」、食べ終わったら「ごちそうさま」と言います。日本では、何も言わずにいきなり食事を始めるとマナーが悪いとみなされることがありますので注意してください。外国では、宗教や文化の習慣で食事の前に神様に感謝を示すこともあります。しかし、日本の「いただきます」「ごちそうさま」は、食べ物や生産者に感謝を示すためのものであり、無宗教の人にも習慣となっている文化です。

日本では箸の使い方にまつわるマナーが多い

箸をあまり使ったことがない人は、苦勞することがあるでしょう。さらに、日本には箸で食器を手元に引き寄せる「寄せ箸」や、食事中に食器の上に箸を置く「渡し箸」など、箸に関するマナー違反が多く存在します。箸の使い方に気を遣いすぎると食事を楽しめなくなるかもしれませんが、最低限の持ち方やマナーは一度確認することをおすすめします。箸を使うことで日本文化を感じることができますが、難しいと感じる場合はフォークなどを使って食べやすい方法で食べると良いでしょう。本来、箸で食べるような食事であっても、フォークを求めて怒ったり嫌な顔をする日本人はほとんどいません。もし、そのような人がいたならば、その店には二度と行かないようにしましょう。

日本における食事のときの音

日本では、食事のマナーとして普段は音を立てずに静かに食べることが大切にされています。しかし、そばやうどんを食べるときは、音を立てて食べるのが良いとされています。これは、そばやうどんを「すする」ことで、味や香りをより楽しむことができ、また、熱い麺を冷ましながらかき混ぜる効果もあります。この「すする」文化は、日本独特のもので、料理を美味しく食べるための方法として昔から受け継がれてきました。そばやうどんを食べるときの「すする」音は、失礼ではなく、むしろその食べ物を楽しんでいるのです。ただ、この日本独特の「すする」文化は、静かにゆっくりとした食事が美德とされることが多い海外では、あまり良い印象を与えません。皆さんが日本のマナーを学んでくれているように、私たち日本人は海外を訪れたとき、周囲の人に不快感を与えないためにも、このことに注意する必要があります。

食器を持って食べる

食事のマナーも国によって違います。欧米では、食事はフォークやナイフ、スプーンを使って、皿は手に持たないのが普通です。一方で日本では、茶碗やお椀を手に持って食べるのが正しいマナーとされています。これらの違いは文化の違いからきています。

食べるときの姿勢

日本では、相手を不快に思わせない食べ方がかなり意識されています。その中でも、食べるときの姿勢に関するマナーも知っておきたいポイントです。まずは姿勢をきちんと正し、正しい箸の持ち方で食事をする、そしてテーブルに肘をついたり片腕を下ろして食べるのはあまり良くないとされています。

お箸で食べ物をささない

お箸は挟むためのものです。お箸で食べ物を刺す行為は「刺し箸」と言われ、行儀が悪いとされています。特に、お茶碗に盛られたご飯にお箸を刺すと、仏様へのお供えと同じになってしまうため、良くないこととされています。

お箸からお箸で食べ物を受けわたさない

箸から箸へ料理を受け渡す行為は、ご遺骨拾いを連想させる縁起の悪い所作として、マナー違反とされています。

おわんを持ち上げる

食事の際、茶碗は片手で持ち上げて食べるのが日本のマナーです。ラーメンの丼や大きなお皿など、片手で持ち上げられないものはお皿に手を添えて食べるようにします。海外では、お皿を持ち上げて食べる習慣がない、または日本とは逆にそれがマナー違反になってしまう国や地域もありますので、あくまでも「日本の食事マナー」として、覚えておくと良いでしょう。

食事は残さない

日本では、外食をするときや誰かにご飯を作ってもらった際に「食事は残さず食べる」のがマナーです。完食することは作ってくれた人や食べ物に対する感謝を表し、また「もったいない」という日本人の精神からも「残さず食べることが良い」とされています。韓国や中国では、以前は食事を残すことで食事をもてなしてくれた相手に対して「私はもう十分お腹いっぱいですよ」という気持ちを表すことがありました。逆に残さず食べてしまうと「食事が足りない＝もてなしが足りない」という印象を相手に与えてしまうという習慣があったそうです。しかし、近年では「食べ物を残すのはもったいない」という考えから、この習慣は薄れているようです。韓国や中国の人は、もしよかったらそのあたりのことをコメント欄から教えてください。その他、日本では、「食べるときは口を閉じながら食べ、咀嚼音を最小限に抑える」「箸でお皿を叩かない」「手拭き用おしぼりで顔を拭かない」などのマナーがあります。

渡し箸

渡し箸は、箸を器の上に横たえて置く行為を指します。これはマナー違反とされており、食事の途中で箸を休める場合は、必ず箸置きを使用します。渡し箸は、食事がまだ続いているのか終了しているのかがわかりにくくなるため、相手に不快な印象を与えることがあります。また、器の縁に箸を置くことも避けるべきで、これは器に負担をかける可能性があるためです。

迷い箸

迷い箸は、どの料理を食べるか迷って箸を器の上で行き来させる行為を指します。これは、他の人に不快感を与えるだけでなく、非常に無作法な行為とされます。迷い箸を避けるためには、食べるものを決めてから箸を動かすようにしましょう。迷い箸は、食事の流れを妨げるだけでなく、食卓全体の雰囲気損なうことがあります。

寄せ箸

寄せ箸は、器を箸で引き寄せる行為を指します。これは非常に失礼であり、器を傷つける可能性もあります。器を動かす必要がある場合は、必ず手を使って丁寧にいきます。寄せ箸は、他の人に対する配慮を欠いた行動とされるため、避けるべきです。特に大勢での食事の際には、他の人の視線や気持ちを考慮して行動することが求められます。

共有の箸

みんなで一緒に食べている料理を取る際には、共有の箸を使うことが求められます。共有というのはみんなで一緒に使うという意味です。自分の箸で料理を取るのとは、衛生面でもマナーの面でも避けるべき行為です。共有の箸は、料理を取り分けるために用意されているもので、これを

使うことで他の人と食べ物を分け合うことができます。特に大勢での食事の際には、このマナーを守ることで、清潔で気持ちの良い食事が楽しめます。

静かに食べる

食事中は会話を楽しむことも大切ですが、食べ物を口に含んだまま話すのは避けるべきです。これは、見た目にも不快であり、食べ物が口から飛び出す可能性があるためです。また、周囲の人々に迷惑をかけないよう、適度な音量で話すことも重要です。特に公共の場や大勢での食事の際には、周囲の雰囲気壊さないように配慮することが求められます。

箸置き

箸を使わないときは、箸置きに置くのが基本です。箸置きがない場合は、食器の縁に箸を並行に置くことが許容されますが、これはあくまで一時的な措置として考えます。箸を無造作に置くことは、他の人に対して無礼な印象を与えることがあるため、注意が必要です。また、箸置きに置くことで、箸の先端が清潔に保たれるため、衛生的にも良いとされています。

魚の食べ方

魚を食べる際には、身をきれいに取ることが求められます。まず、頭側から尾側に向かって身をほぐし、骨を避けながら食べるのが一般的です。また、魚の骨をきれいに取り除くことも重要です。魚の骨は、箸を使って丁寧に取るようにし、食卓に散らばらないように注意します。特に和食では、美しく食べることがマナーの一環とされています。

食事のペース

食事のペースにも気を配ることが大切です。自分のペースだけでなく、周囲の人のペースにも合わせることを求められます。特に大勢での食事の際には、全員が食べ終わるまで待つなど、配慮が必要です。自分だけが早く食べ終わると、他の人にプレッシャーを与えることがあります。また、食事のペースを調整することで、会話を楽しみながらゆっくりと食事を楽しむことができます。

■日本の日常

日本は治安がとても良い

日本の治安は非常に良いと評価されています。世界平和指数というランキングで、日本は世界で9位にランクインしています。世界平和指数は、経済平和研究所という団体が23の項目にわたって163か国を分析し、毎年発表しています。ちなみに、1位はアイスランド、2位はデンマーク、3位はアイルランド、4位はニュージーランド、5位はオーストリアです。アジアで30位以内に入っているのは日本だけですが、台湾は年々順位を上げ、現在31位です。日本には多くの自動販売機があり、電車の中で安心して眠ることができ、無人の販売所(お弁当や食材など)も存在します。これらは日本の治安の良さを物語っています。カフェなどで席を確保するためにバッグを置いたまま席を離れることができるという行為は、多くの外国人にとって驚きです。

日本では道で酔っ払いが寝ている

一部の日本人は、お酒を飲みすぎて、酔っ払って道で眠ってしまうことがあります。海外でも夜の街で飲酒することは一般的ですが、ベロベロになるまで酔っ払うということはほとんどありません。なぜなら、盗難や事故の危険があるためです。ちなみに「ベロベロに酔っ払う」ことを「泥酔状態」と呼びます。泥酔状態の正確な意味は「意識がなくなるほどひどく酒に酔うこと」です。

日本人は正直者が多い

多くの日本人は、落とし物を拾ったら警察に届けます。例えば2022年には現金だけで40億円弱が警察に届けられました。この金額は、日本の「現金の落とし物」としては過去最高額です。日本

では、落とし物を警察に届けて落とし主が見つかった場合、落とし主から5-20%のお礼が渡されます。拾ってくれたお礼として、どれだけのお金を渡すかは落とし主が決めることができます。

日本におけるレストランでの店員の呼び方

レストランで店員を呼びたいとき、日本では手を挙げるか「すみません」と声をかけるのが一般的です。海外でも同様に、目が合ったら手を挙げたり声をかけたりします。落ち着いたレストランでは店員を大きな声で呼ばず、賑やかな居酒屋では逆に少し大きな声で店員を呼ぶなど、お店の雰囲気に合わせて声の大きさを調整するとよいでしょう。お店によっては、店員を呼びたいときに押すボタンが設置されている場合もあります。ボタンを押すとすぐに店員が来てくれるのでとても便利です。

日本では食事や飲み物は残さず食べる

世界には食べ物を残すのがマナーとされる国もあります。しかし、日本では基本的に食べ物や飲み物を残さない方が良くとされています。食べきれなかった食事を持ち帰るサービスもありますが、すべてのお店が対応してくれるわけではありません。食事を注文する際には、自分が食べられる分だけを注文するようにしましょう。

日本人は頻繁にお辞儀をする

お辞儀とは、挨拶や感謝、敬意などを表すために、相手に向かって腰を折り曲げる動作です。公共施設やお店を利用すると、スタッフがお辞儀をします。ビジネスの場においても、取引先の人との挨拶のときや別れるときなど、何度もお辞儀をします。お辞儀の文化がない国の人には違和感があるかもしれませんが、これは日本人にとっては当たり前の行動です。「お辞儀」は「辞儀」の丁寧な表現ですが、「辞儀」だけで使われることはほとんどありません。ちなみに、家族や親しい友人にはお辞儀はしないのが普通です。

日本では飲食店が無料の水とおしぼりを出す

日本の飲食店では、お客さんに無料で水とおしぼりを出すことが普通になっています。海外では、水をもらうときにお金を払うことが多いですが、日本では無料で提供されます。おしぼりも、日本独特のサービスで、他の国ではあまり見られません。このような心づかいは、日本の「おもてなし」の文化を表しており、お店がお客さんを大切にしていることを示しています。

日本の接客はとても丁寧

日本ではお店やレストランでの接客がとても丁寧です。店員さんやウェ이터さんが親切で、気を配った接し方をするため、外国の人はその丁寧さに感心したり、驚くことがあります。日本のサービスの質の高さは、多くの人にとって印象深い経験となります。

日本では自動販売機は地方から都市部まで広く普及している

日本では、スーパーや遊園地、公園、道端はもちろん、公共の場やバス停、駅などの混雑した場所、会社や学校など、至る所に自動販売機が設置されています。これも日本の治安が良いために可能なことです。日本人はスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどを「スーパー」や「コンビニ」など、すぐに省略してしまう癖があります。

日本では冬なのに小学生は半ズボン

日本の冬は寒いですが、道ですれ違う小学生が半ズボンだったために「あの子は寒くないのか」と驚く人もいます。日本には「子供は風の子」ということわざがあります。これは「子どもは寒い風が吹く中でも元気に外で遊びまわり、大人は寒がって火のそばを離れない」という意味です。もちろん寒さが苦手な日本人の子どももたくさんいますが、冬でも半ズボンの子供はたくさんいます。

冬の雪がふっている季節でも若い女性はミニスカート

日本では冬の雪が降っている季節でもミニスカートをはいている女性が多いです。ミニスカートの学生も多いです。外国の人から見たら「寒くないの?！」と驚くかもしれませんが、彼女たちは普通に寒いと感じています。寒いのにミニスカートをはく理由は「かわいい」からです。彼女たちにとって、かわいいことは寒いことより優先するのです。

日本人はれいぎ正しい

日本では、「すみません」という言葉を、謝罪の時だけでなく、挨拶や感謝の意味でもよく使います。しかし、海外では謝罪することは、自分の間違いを認めることとされるため、そんなに簡単には使いません。日本の電車やバスでは、静かにするのがマナーで、大声で話さないようにしています。マスクをする人も多いですが、これは自分を守るだけでなく、風邪を他人にうつさないためです。海外では、マスクをする人は少ないです。日本のこのような振るまいは、他の人へのやさしさと思いを表しています。

日本人はシャイな人が多い

一般的に海外では「日本人は恥ずかしがりの、内気な性格」と思われることが多いようです。日本人がシャイな理由は、文化や社会的な要素が関連しています。人との関わりや集団行動の中で、様々なことがスムーズに進むように自分の意見の主張を控える傾向があります。つまり「言いたいことを言わない」人が多いということです。これは多くの場合で日本人と接するとき、コミュニケーションのヒントとなりますので覚えておいてください。

日本のトイレ

日本では、誰も使っていない公共のトイレのドアは開いていますが、家のトイレのドアは使っていないと閉まっています。海外では、家のトイレも使っていないときはドアを開けておくことがあります。日本の家では、トイレを使ったあとはドアを閉めることを忘れないでください。日本の公共トイレは無料で、とてもきれいです。荷物をかけるフックや棚があるので、荷物を床に置く必要がありません。ヨーロッパなどの海外で公共トイレは有料のことがあります。日本の公共トイレはすべて無料で利用できます。無料なのにこんなにきれいなのはすごいと海外の人に驚かれています。日本の公衆トイレは、洗浄便座など高性能で、世界中から人気があります。実際、外国人観光客の中には、そのトイレを買って帰る人もいます。新しいトイレには、便座が自動で開いたり、水が自動で流れるなど、驚きの機能がたくさんあります。手を洗う場所にはジェットタオルもあります。

お財布をズボンの後ろポケットに入れる

日本を訪れた人は、多くの日本人がズボンの後ろのポケットにお財布を入れていることに驚くかもしれません。外国では、スリに狙われやすいので絶対にしないことです。しかし、日本では多くの人(特に男性)が普通に後ろポケットに財布を入れています。イタリア人の友人曰く「イタリアでそんなことをしたら空港を出るまでにスリに遭うだろう」とのことです。改めて日本の治安の良さを感じます。

電車の中で居眠りをする

外国の人は、日本の電車で多くの人が居眠りをしているのを見て驚くことが多いです。外国では、電車で寝るとスリの被害に遭う危険が高いためです。しかし、日本では平日の夕方などに、電車で寝ている人がたくさんいます。

見える場所に貴重品を置く

カフェやレストランで席を離れるとき、荷物を置いて席を確保することがあります。バッグやスマホを机の上に置く人も多いですが、外国の人はこれを「危ない」と感じます。外国では、ちょっと目を

離しただけでスリや置き引きの被害に遭うことがよくあります。特に人が多い場所では、貴重品を見えるところに置くのはとても危険です。貴重品というのは財布やスマートフォンなど大事なもののことです。

タクシーのドアが自動

日本のタクシーのドアは自動で開閉します。これは、外国から来た人たちをよく驚かせます。たとえば、話で聞いていても、実際に見ると「本当だったんだ！」と思うようです。また、タクシーの運転手の礼儀正しさも、世界的に見て非常にレベルが高いと感じる人が多いようです。ちなみに、私たち日本人は自動ドアのタクシーに慣れているため、海外でタクシーに乗ったとき、ドアを閉め忘れてドライバーに「おいおい、ドアを閉めてくれ！」と注意されることがよくあります。

食品サンプル

日本のレストランでよく見る食品サンプルは、本物のようによくできていて、外国の人も驚きます。合羽橋商店街では、そんな食品サンプルを使ったキーホルダーなども販売されており、日本のお土産として買う人がたくさんいます。

アイスコーヒー

日本では夏にアイスコーヒーをよく飲みますが、外国ではあまり一般的ではありませんでした。アイスコーヒーは実は大正時代に日本で生まれた飲み物です。しかし、スターバックスがアイスコーヒーやフラペチーノを世界に広めたおかげで、今ではもっと知られるようになりました。ヨーロッパでは、コーヒーにアイスクリームや生クリームを入れたものはありますが、日本のようなアイスコーヒーはありません。だから、日本のアイスコーヒーを初めて飲む外国の人は、そのおいしさに驚くことが多いです。もちろん、逆に「コーヒーを薄めた水のような飲み物」と感じる人もいます。

ベジタリアン向けのメニューのない店が多い

日本ではベジタリアン向けのメニューがあるお店が少ないため、ベジタリアンの人が食事をする際に不便に感じることもあるかもしれません。日本人の間でもベジタリアンについての理解がまだ十分に進んでいません。ただ、最近ではベジタリアン向けの食事を提供するお店も少しずつ増えてきています。

Wi-Fiが使えるところが少ない

日本は公共の場所でWi-Fiが使える場所が少なく、外国から来た観光客がインターネットの通信環境に不便を感じる人が多いです。観光客のアンケートによると、日本で困ったことの1位が「Wi-Fiが無料で使えない」で、多くの人がこの問題を感じています。

時間外ATM

日本に来た外国人は、時間外でも使えるATMに驚くことがよくあります。多くの外国では、ATMが夜間や休日に使えないのが普通なので、「日本のATMはいつも使えてすごい！」と感心するようです。さらに、「夜遅くや休日にATMを利用しているので、手数料など多くのお金が取られていないか」と心配する人もいます。ただし、高額な手数料を取られることはありませんが、金融機関によっては「時間外手数料」として100円や200円程度かかる場合があります。

カプセルホテル

カプセルホテルは日本でよく知られており、外国人にも人気があります。安価で、一人ひとりが独立した小さな部屋に泊まることができます。その未来的なデザインや快適さが人気の理由のようです。最近では、より特別なデザインのカプセルホテルが増えており、楽しさが増えています。女

性専用のカプセルホテルもあり、安全性はますます高くなっています。また、日本だけでなく、海外でもカプセルホテルが増えているようです。

日本人は海藻をよく食べます

日本はワカメや昆布、ひじき、海苔など海藻をよく食べる国です。これは、他の国と比べても珍しいことで、日本人の体が海藻の栄養をよく吸収できる特別な体質になっているからかもしれません。長い間、海藻を食べてきたため、そのような体質になったといわれています。

卵かけご飯

日本ではご飯に生卵をかけて食べる「卵かけご飯」が普通ですが、外国の人には驚きの食べ方です。日本の卵は品質が高くて新鮮で安全なので、生で食べることができます。これを知った外国の人の中には、自分の国に戻って生で卵を食べてお腹を壊し、体調が悪くなった人もいるようなので、くれぐれも注意してくださいね。

日本人はぶどうの皮をむいて食べる

皮を剥かずに食べられるぶどうもありますが、日本では皮が厚いぶどうは剥いて食べるのが一般的です。外国人は、ぶどうの皮を剥かずにポイポイと口に放り込んで食べるため、日本人が器用にぶどうの皮を剥いているのを見ると驚くそうです。

日本ではまだFAXを使っている

未だにFAXを手放せない日本人。家庭での使用だけでなく、企業でもビジネスで使う場面が多く見られます。外国人は「ITが発達している日本がなぜ？」と非常に不思議に思っているようです。多くの日本人もあなたのように不思議に思っています。

お辞儀について

日本では、初めて会う人や謝るとき、感謝を伝えるときなどに、頭を下げてお辞儀をする習慣があります。日本人がお辞儀をするようになったのは、中国から仏教が伝わった500-800年頃だといわれています。もともと、お辞儀には「攻撃する意志がないこと」を伝える意味があります。体の中で最も大切な部分である頭を相手に向かって下げ、戦うつもりがないことを表します。日本のように日常的には行われないものの、中国や韓国を含むアジアの他の国々でもお辞儀をする文化は存在します。しかし、欧米ではこのような習慣は見られず、電話で話している際にも目に見えない相手に対してお辞儀をする日本のサラリーマンの姿に驚く外国人も多いようです。

時間を守る

日本では、公共の交通機関の運行スケジュールやビジネスの場面など、時間を正確に守ることが重視されています。これは日本特有のマナーといえるでしょう。多くの国では、電車が30分遅れることや、レストランで注文した料理がなかなか出てこないことも珍しくありません。しかし、日本では「5分前集合」と言われるように、時間に対する意識が高く、時間を守ることが非常に重要視されています。日本を訪れた外国人の中には、1分単位で正確に運行する電車に驚く人も多いようです。東京の多くの方は、待ち合わせ時間に5分や10分遅れると「時間にだらしない」と感じる人が多いので、注意してください。ただし、日本の中でも沖縄県などでは「ウチナータイム（沖縄時間）」などと言われるように、1分どころか、待ち合わせに1時間遅れても怒る人は少ないです。「沖縄の人は待ち合わせ時間に家を出る」という笑い話があります。これは、10時に待ち合わせをしたら、10時に家を出ることを表していて、家を出た時点で遅刻が確定しているという笑い話です。もちろん、沖縄の人すべてがそうであるわけではありません。そのくらい沖縄の人たちの中では時間がゆっくり流れていることを意味しています。

ゴミは分別する

日本は他の国と比べると、「細かくごみを分別しなければならない」という点に外国人は驚くようです。地域によって細かいルールは異なりますが、燃えるゴミ・燃えないゴミ・ペットボトル・缶・ビン・ミックスペーパーなどと、分けてごみに出すのが一般的です。外国人にとっては、ごみの分別だけでも大変なのに、牛乳パックの中身をすすいで洗ったり、ペットボトルのフタとラベルを分けてから捨てたりなど、捨てる人の細かい配慮があることにさらに驚く人も多くいます。

ゴミをポイ捨てしない

日本はゴミ箱が少ない国にも関わらず、道端にゴミが落ちていない国です。道端や道にある排水溝などにゴミをポイ捨てすることはやめて、自分で出したゴミは持ち帰るか、ゴミ箱を見つけて捨てるようにしましょう。

公共の場では騒がない

電車やバスの中では携帯電話で話してはいけません。海外では電車の中で電話で話すことはごく普通の光景ですが、日本ではマナー違反です。さらに、優先席付近ではスマホの電源を切ることも大切です。電話で話す場合は、電車を降りてから話すか、新幹線の場合だと、座席のある車両から出て人のいないデッキなどで電話しましょう。たまに見かける電車の車内の光景は、電話に出て「すみません。折り返します」とだけ相手に告げ、電話をすぐに切っている場面です。これは、「今は電車だから話せないけど、そのことだけでも伝えたほうが相手に対して失礼にならない」という考えからこうした行動になっています。電車の中で隣の人と話すことと、電話で話すことはあまり変わらないのに、電話で話していることが分かると、嫌がる日本人がとても多いです。それを知っているため、私も電車の中では電話はしませんが、心の中では「なぜ電車の中で電話をしてはいけないのだろう」と感じています。もしかしたら、もともと「公共の場で騒がしくしてはならない」という考え方があって、電話だと声が大きくなる人が多いため、いつの間にか「電車やバスのような閉鎖的な空間で電話をするのは良くないこと」という考えが定着してしまったのかもしれないですね。若者がBluetoothのイヤホンで音楽を聴いていたところ、その音が外に少し漏れていて、近くにいた人に「音量が大きすぎるから小さくしてくれ」と指摘されたシーンもたまに見かけます。そういう指摘をする人はごく少数ですが、ほとんどの場合、明確なルールはありません。ただ、ルールや理由とは関係なく、周りで不快な思いをする人がいるなら、その人を気遣うことが大事なことだと思います。

電車やバスなどでは、物を食べたりするのも良いことだとされません

日本の電車やバスなどでは、物を食べたりするのも良いことだとされません。新幹線や夜行バスなどの長距離移動の場合は駅弁などを楽しむことができますが、通勤・通学時など比較的近距离の移動の場合は避けたい方がいいです。長距離は良いけど、短距離はダメ。このようなルールがあるわけではありませんし、日本人の私ですら不思議な感覚です。ただ、短距離の場合、乗り降りする人が多いですし、長距離新幹線のように決まった席があるわけでもないため、混雑することも多いです。「車内で人が動くことが多い」「混雑する可能性がある」そのようなシーンでは、基本的には、何か食べたりしない方がいいと覚えておくと良いかもしれません。とにかく、日本人の多くは「知らない人に迷惑をかけない」「周りの人を不快にさせない」と考えている人が多いようです。

エレベーターの中

エレベーターの中でしゃべること自体は何も問題ないはずですが、日本人の多くは、エレベーターの中では無言になります。これは「狭い空間で騒がしくしてはいけない」という考えから来るものだと思いますが、エレベーターのドアが閉まった瞬間、エレベーター内はとても静かな空間になります。話すこと自体は問題ありませんが、大きな声では話さないようにしましょう。また、エレベーター内で電話をすることは、一般的にはマナー違反とされます。たまにエレベーター内で会

話をしている人たちを見かけますが、ものすごくヒソヒソ話をされていて、個人的には「普通の声の大きさと話せばいいのに」と感じてしまいます。

整列して並ぶ

電車をホームで待つとき、日本では静かに列に並んで待ちます。電車が来たらそのまま列を乱すことなく、順番に乗らなくてはなりません。コンビニやスーパーで買い物をするときも、レジ前では、整列をして自分の番を待つようにしましょう。並ぶ方向や位置がわからない場合は、床をみると「こちらにお並びください」や「→→→(矢印)」など、それを示すものが見つけられるかもしれません。ちなみに、エスカレーターはどちらか片方に寄ります。東京などの関東エリアでは左に寄って、大阪などの関西エリアでは右に寄ります。どちらに寄ればいいのかわからないときは、他の人たちがどちらに寄っているのかで判断すればいいと思います。どちらかに寄る明確な理由は、日本人の私ですら詳しく知りませんが、調べてみると、どうやら急いでいる人のために通路をつくっているようです。

歩きながら飲み食いしてはいけません

罰せられることはありませんが、歩きながら飲み食いしている人を見ると、行儀が悪いという印象を受ける日本人が多いです。ただし、お祭りやイベントの屋台などでは「食べ歩き」という文化があり、食べながら歩くことを楽しむ日本人が多いです。

家では靴を脱いで、靴は揃えて置きましょう

自宅だけでなく、友人の家に招待されたときなど、靴は玄関で脱いで家に入りましょう。また、脱いだ靴を揃えて置くと「この人は礼儀正しい人だな」と思ってもらえます。欧米では「屋内でも靴を履いたまま」というのが一般的ですが、北欧地域やアジアのタイなどでは日本と同じように、玄関で靴を脱いでから入る文化があります。日本ではなぜ屋内で靴を履かないのかというと、靴の中で足が蒸れてしまうのを防いだり、また昔は床に座って過ごす時間も多かったことなどが理由となっています。

日本では夕方前から街に学生がたくさんいる

海外の国によっては学生が午後6時や7時まで勉強している国もたくさんあります。そういう国の人から見たら「日本の学生はよくサボっているなあ」と思うかもしれませんが、サボっているわけはありません。日本ではそんなに長く授業がないだけです。

日本では車が来なくても赤信号なら渡らずに待っています

日本では、例え周りに車が見当たらないとしても、信号が赤なら渡らずに青になるのを待つ人が多いです。特に、近くに子供がいたときは子供の教育を考えて、それが知らない子供であったとしても、赤信号では渡っているところを見せないように気をつけている大人も少なくありません。

ティッシュの無料配布

日本では、駅の近くなど人がたくさん通る場所でティッシュを無料で配っている人がいます。このティッシュは広告のためのティッシュなのですが、「なぜ無料でティッシュをくれるのか」と驚く外国の人が多いようです。

物価の安さ

外国人が日本に来て驚くことの一つに、日本の物価の安さがあります。しかし、その驚きの度合いは出身国によって異なります。例えば、ヨーロッパから来た人々は、日本の外食の安さに特に驚きます。フランスやドイツでは外食は高価ですが、日本では数百円から千円程度で美味しい食事が楽しめます。コンビニの弁当やラーメン店での食事は、特にコストパフォーマンスが高いと評判です。

アメリカからの旅行者は、公共交通機関の料金の安さに驚くことが多いです。アメリカの大都市では地下鉄やバスの料金が高くなりがちですが、日本の都市では数百円でどこへでも行ける便利さがあります。また、東京メトロやJRの定期券を利用すれば、さらにお得に移動できます。

東南アジアからの観光客は、100円ショップの存在に驚くことが多いです。ダイソーやセリアといった100円ショップでは、質の良い商品が驚くほど安く手に入ります。文房具、キッチン用品、生活雑貨などが手軽に購入できるため、多くの観光客が訪れます。

さらに、最近の円安も日本の物価の安さを際立たせています。2024年4月29日には、34年ぶりに1ドル160円という円安を記録しました。海外からの旅行者にとって日本での買い物や観光が一層お得になっています。円安のおかげで、外国人観光客はより多くの日本の文化や商品を手軽に楽しむことができるようになりました。

このように、物価の安さや円安の影響で、日本は多くの外国人にとって魅力的な旅行先となっています。それぞれの国からの観光客が感じる驚きのポイントは異なりますが、いずれも日本の物価の安さに感銘を受けています。

■日本の文化

日本の温泉文化

海外にも温泉はありますが、多くの場合、水着を着用しなければなりません。しかし、日本では何も身に着けず「素っ裸」で温泉に入ります。「素っ裸」とは、水着やタオル、衣服など何も身に着けない状態を指します。この点に多くの外国人が驚くかもしれませんが、日本人は昔からこのように温泉を楽しんできました。また、日本の温泉ではタトゥーが禁止されてきた歴史があります。タトゥーが一般的な文化である多くの外国人にとって、これは驚くべきことかもしれません。温泉に入りたい外国人観光客は、タトゥーOKの温泉や、他人の目を気にせずに利用できる貸し切り温泉を選ぶと良いでしょう。ただし、現在では温泉地に多くの外国人観光客が訪れるようになり、タトゥーOKの温泉も増えています。事前に確認してみてください。

多くの日本人は湯船に入る

湯船とは簡単にいうと湯をためる浴槽のことです。浴槽のことをなぜ湯船と呼ぶのかというと、江戸時代まで遡ります。日本では江戸時代、船の中に浴槽をつくり、お金を払ってもらいお客さんに楽しんでもらっていました。今でいう「銭湯」です。つまりは、船の上の銭湯を「湯船」と呼んでいたそうです。今では湯を貯める浴槽と同じ意味で使われている言葉です。日本では湯船に入るのが古くから習慣になっていますが、世界的に見るとこうした習慣を持つ国は少ないです。湯船に入る文化があるアジア圏でも、日本人ほど毎日湯船に入る習慣はない国がほとんどです。湯船に入る習慣のない国は、入浴ではシャワーだけで済ませることが多いです。日本の湿った気候と異なり空気が乾燥した国では、毎日丁寧に体を洗わなくても大丈夫な条件が揃っているためといわれています。ちなみに、沖縄などは1年中暖かいので、湯船に入る習慣がなく、シャワーのみという家庭も多いです。

日本の判子文化

国内で仕事や契約、役所などで何かの手続きを行うとき、ほぼ必須なのが「判子」です。日本人にとっては日常的な光景ですが、サイン文化の国から来た人は驚くでしょう。判子屋さんの中には、外国人向けに名前に漢字を当てて判子を作ってくれるサービスを提供しているお店もあります。あなたも日本に来たら自分の判子を作ってみてはいかがでしょうか？自分の名前の漢字を見るたびに日本を思い出すのも良い楽しみ方かもしれませんね。

日本のおもてなし

日本には昔から「おもてなしの精神」があります。おもてなしとは、知らない人を親切に歓迎することです。笑顔で心がけた接客や、かゆい所に手が届くようなきめ細かいサービスは、世界に誇れる日本の魅力のひとつです。

日本の伝統「わびさび」

「わびさび」とは、日本独自の美意識を簡単に表した言葉です。不完全なこと、枯れたり古くなったものの中に美しさを感じる考え方です。外国人にもよく知られている茶道や盆栽、日本庭園など伝統あるものには例外なく「わびさびの精神」が取り入れられています。「わびさび」は言葉では表現できない美しさを表す意味もあり、文章で説明するのが難しい日本語です。わびさびは、日本人にとって大切な文化のひとつです。

日本ではバレンタインデーに女性から男性にチョコレートをあげる

バレンタインデーは、2月14日に恋人たちが愛を誓う特別な日です。この日は、昔のローマのキリスト教司祭の話に由来しています。しかし、日本では少し違い、女の子が男の子にチョコレートを贈る日として知られています。これは、世界の中でも日本だけの習慣であり、他の国ではあまり見られないことです。日本でチョコレートをプレゼントするようになったのは、戦後にお菓子の会社が広めたからだと言われています。チョコレートの会社はたくさん商品を販売したかったので、「バレンタインデーには男性にチョコレートをプレゼントしよう」と宣伝しました。海外の事情をよく知らない多くの日本人は、バレンタインデーとはそういうものだと思い込み、それが現在の日本でも習慣になっています。

日本では鶴を縁起の良い鳥とする

日本では「鶴」は幸運の象徴とされ、長寿や幸福を意味しています。昔から、物語や芸術、ことわざにもよく登場する特別な鳥です。しかし、世界にはさまざまな文化があり、同じ動物でも異なる意味を持つことがあります。たとえば、北欧の国々では、鶴を「死を運ぶ鳥」として恐れられることもありますし、ハイチでは「悪魔の使者」とされることもあります。そのため、鶴が良い意味を持つ日本の風習、たとえば千羽鶴をもらったとしても、怖がったり気分を害したりしないようにしてくださいね。

日本のお茶文化

日本にはお茶を楽しむ特別な文化「茶道」があります。お茶を点てたり、飲んだりするときの決まった作法があり、これらのルールはとても大切にされています。日本のお茶の文化は、他の国の人にとって新しく興味深い体験になるかもしれません。

日本ではおもてなし文化がすみずみまで行き届いている

日本では、ホテルやレストランでのおもてなしがとても素晴らしいと世界中から評価されています。例えば、飲食店で注文を聞く時にしゃがんで話を聞いたり、銀行で困っているときにすぐに案内係が助けてくれるなど、たくさんの心づかいが見られます。また、レストランでは無料でお水やおしぼりを提供してくれたり、雨の日には紙袋が濡れないようにビニール袋をかけてくれるなど、細やかなサービスもとても喜ばれています。

日本のカラオケ文化

カラオケの発祥地は日本であり、日本人が友人や仕事仲間と楽しむ文化として広まりました。カラオケボックスでは、個室で自由に歌を楽しむことができ、この活気あるカラオケ文化は、外国人にとって新鮮で驚きの体験となることが多いです。日本のカラオケは、国際的にもユニークな娯楽として知られています。

チップは払わなくてもいい

日本にはチップの習慣がありません。日本では、チップを払わなくても従業員がしっかりと接客してくれます。サービス料は支払う金額に含まれていると考えて問題ありません。チップの習慣が当たり前の国から来た人は、チップをあげたくなるかもしれません。しかし、日本ではチップを受け取る習慣がないため、あなたがチップをあげようとしても、従業員は困惑してしまいます。

■日本の季節的な行事

日本では新学期が4月に始まる

海外では9月に入学式や始業式が行われることが多いですが、日本では新学期が4月に始まります。途中で会社に入社する中途入社というのがありますが、一般的には会社に入社するのも4月です。会社の会計年度も4月から始まります。そのため、4月は「新年度」と呼ばれ、3月は「年度末」と呼ばれています。年度末の3月は、翌月の新年度に向けていろいろと準備をするため、忙しくなることがあります。日本では桜が4月に咲きます。そのため、何かが新しく始まる時期と桜の花は私たち日本人の記憶のなかでとても密接に結びついています。

就職活動をするほぼすべての人が同じスーツを着ます

10月～3月にかけて、大学生は就職活動をします。就職活動は日本では主に「就活(しゅうかつ)」と呼ばれています。就職活動とは自分に合う仕事を見つけるための活動です。日本では、10月～3月にかけて、大学生の就職活動が始まりますが、このときほとんどの日本人大学生が同じスーツを着ます。そのため、街では同じスーツを着た大学生をたくさんみかけることがあります。

日本人はクリスマスもふつうに仕事をします

多くの海外の人にとってクリスマスは、日本の正月のような重要な行事かもしれません。しかし、日本ではクリスマスは祝日ではなく、みんな普通に働いています。そのため、お店や役所なども通常通り営業しています。

日本では全国で一斉に成人式が行われる

日本の「成人式」は、20歳を迎えたとき、大人になることを祝う重要な日です。新しい成人たちは、スーツや、日本の伝統的な服である振り袖や袴を着ることが多いです。この式典は、日本独自のものです。例えば、アメリカでは16歳になると運転免許を取得できるため「Sweet sixteen」というお祝いをします。ただ、アメリカでは誕生日に個別にお祝いをするので、日本のように同じ日に全国でお祝いするわけではありません。日本の成人式は1月に行われます。

日本ではひな祭りに高価な人形を飾る

ひな祭りは、3月3日に女の子の成長を祝う日本の行事です。この日には、女の子の健康と幸せを願って、高価な「ひな人形」を飾ります。海外の人には珍しく感じるかもしれません。なぜなら、海外では女の子だけを祝う行事が少ない上に、ひな人形のように高価なものを特別に飾る文化がありません。クリスマスの際に飾り付けをする国もありますが、ひな祭りのように多額のお金を使うことは珍しいことです。外国の人からすれば、人形を飾る理由を不思議に思うかもしれませんね。

日本のお年玉

日本のお正月には、子供たちに「お年玉」としてお金をあげる習慣があります。子供たちはこのお年玉をもらうことをとても楽しみにしています。大人たちは、親戚の家に行くとき、お金を「ポチ袋」と呼ばれるお年玉用の小さな袋に入れて準備していきます。このような習慣は、日本独特のもので、他の国の人にとっては新鮮な文化かもしれません。中国や台湾の正月(旧正月)では「紅包」と呼ばれるお金が入った赤い袋が大人から子供へ渡されますが、それと同じです。ただし、中国

や台湾の紅包は正月だけではなく、誕生日や結婚式など多くのお祝い事で使用されています。ちなみに、日本のお年玉の金額は、小学生は1,000円～5,000円、中学生は3,000円～10,000円、高校生は5,000円～10,000円、大学生は10,000円～30,000円くらいが平均だそうです。

■言葉と表現

日本人の相づちというコミュニケーション

日本人は、話を聞くときに「うんうん」とか「へえ」と言いながら聞くことが多いです。これは、相づちといい、「ちゃんと聞いてるよ」や「同意しています」というような意味があります。外国の人の中には、これを失礼だと思える人もいますが、日本ではこれが良いこととされています。また、日本人は、自分の気持ちをストレートに言わないことがよくあります。例えば、「いいえ」と思っているのに、「はい」と言うことがあります。そして、「すみません」という言葉を、謝罪のときだけでなく、ありがとうという意味でも使います。そのため、日本人は話しているとき、相手の気持ちをよく考えながら話します。外国では、知らない人とも簡単におしゃべりを楽しむことができますが、日本ではあまり見知らぬ人に話しかけることはありません。

断るときに顔の前で手を振る

何かを断るとき、私たちは顔の前で手を振ることがあります。しかし、このジェスチャーは海外ではうまく伝わりません。実は、海外ではこれが相手を侮辱する意味になることもあり、使う際には注意が必要です。海外で「NO」と言いたいときは、単に「NO」と言葉で伝えるのが一番です。また、日本でよく見る「ピースサイン」も、海外のいくつかの国では良くない意味に取られることがあります。そのため、外国の人がカメラに向かってピースサインをする日本人を見ると、奇妙に思うこともあります。ただし、ピースサインをする日本人に悪意は全くありません。

笑うとき、口元を隠す

日本では、女性が口を開けて笑うことを避けることが多く、おしゃべりをしているときにも口元を手で隠すことがよくあります。これは、大きく口を開けることは良くないこととされているからです。しかし、外国の人から見たら、口元を隠すのは「何かを隠している」と思われることがあります。日本人は会話をするとき、相手の目を見て話すことが多いですが、外国の人は口元を見て話すことが多いので、口元を隠すと「心を閉ざしている」と感じられるかもしれません。

呼ぶときに肩に触れる

日本では、誰かを呼ぶときに声が届かない場合、その人の肩を軽くトントンと叩くことがあります。しかし、海外では人の体に触れることが好ましくないとされることが多いため、肩を軽くトントンと叩かれて呼ばれることを不快に感じる人もいます。

■仕事

日本では形式に決まりの多いビジネスメール

日本のビジネスメールは、定型化された形式が多く、煩雑に感じることもあるかもしれません。基本的な書き方はテンプレートを参考にすることができますが、敬語の使い方などは身につけておくのが役立ちます。

日本の飲み会

日本では、仕事が終わったあとに同僚と飲み会に行くことがよくあります。「飲み会」とは、みんなでお酒を飲んだり食事をしたりすることです。しかし、外国の人から見ると「なぜ仕事の人とプライベートな時間にも会うのか？」と思うかもしれません。確かに、日本人の中にも最近は「飲み会に行きたくない」という人が増えてきています。特に仕事の同僚とする飲み会で気を付けたいのが「お酌」の習慣です。簡単にいうとお酌とは、年齢や立場が下の人が自分より偉い人にお酒を注

ぐことです。最近ではあまり気にする必要はありませんが、外国人であるあなたがこれを知っていれば相手に喜ばれるでしょう。飲み会のときに「無礼講」という言葉を聞かかもしれません。これは、年齢や立場に関係なく対等な関係でお酒を楽しく飲もうという意味です。しかし、その言葉を信じて失礼なことをして怒られる場合もあるので、偉い人が言う「無礼講」には注意が必要です。

解雇や退職

日本の会社では、誰かを解雇するとき、法律で30日前に通知しなければならないと定められています。そのため、もし解雇されると言われても、まだ30日間は働くことができます。もし会社がこのルールを守らず、30日前に通知しなかった場合、その人は30日分の給料を受け取ることができます。自分から退職したい場合も、すぐには辞められないことが多いです。次の人に仕事を引き継いだり、会社が新しい人を見つけたりする時間が必要だからです。だから、会社によっては、退職の意思を1ヶ月以上前に伝えるように求めることがあります。

残業

日本では、以前は残業をたくさんする人を「一生懸命な人」と思うことが多かったです。しかし、最近は働く人の健康を大切にしようと、残業を減らす会社が増えています。そのため今は「残業したくない」「定時に帰りたい」と思う人も増えています。定時というのは日本の場合、9:00 am - 6:00 pm のことをいいます。

■日本の交通事情

日本人の10分前行動の時間感覚

電車やバスが数分遅れると「遅延」と表示するように、日本人は1分1秒を非常に大切にします。商談やミーティングは時間通りに開始するために、開始時刻の5～10分前には準備を完了させておくことが好まれます。これを心に留めておくと、日本人とのコミュニケーションがスムーズに進むでしょう。

日本の交通機関では静かにしましょう

海外では、電車やバスなどの交通機関内で電話をすることが当たり前とされる国が多いです。しかし、日本では電車やバスでの電話は原則禁止であり、大声での会話も好ましくありません。大きな声を出して騒がしくないように注意しましょう。たとえ電話で話さなくても、大きな着信音が鳴るだけで周囲の人々が驚いてしまいます。電車に乗るときはマナーモードにすることをおすすめします。電車やバスを利用する際は、周りの人に迷惑をかけないように、できるだけ静かに過ごしましょう。

日本の電車はとても人が多い

日本の都市部では、朝の通勤時間や花火大会のようなイベントのときに、電車が非常に混み合います。とても多くの人々が電車に乗るため、車内で動くことができないほど混雑することがあります。これほど電車が混むのは、他の国ではあまり経験できないことなので、日本を訪れる外国人は驚くかもしれません。

日本における電車の駅のメロディー

日本の駅では、電車が到着する時や発車する時に、その駅独自の特別なメロディーが流れます。例えば、高田馬場駅では「鉄腕アトム」の曲が流れます。東京ディズニーリゾートの最寄り駅である舞浜駅では、ディズニーの「It's a small world」の曲が流れます。藤子・F・不二雄ミュージアムの最寄り駅の登戸駅では「ドラえもののうた」が流れます。駅ごとに異なる曲を聞くのは、外国の人にとって新鮮で楽しい体験になるでしょう。

日本における電車や地下鉄の到着する時間

日本の電車や地下鉄は、時間にとっても正確で、遅れることがほとんどありません。例え混雑している時間帯でも、予定通りに運行されることが多いです。実際に、出発時間よりも少し早く出発してしまったことで、鉄道会社が謝罪するニュースがあったほどです。このような出来事は、海外で大きな話題になりました。他の国では、電車や地下鉄が時間通りに来ることが珍しいため、日本の電車の正確さに感動する人もいます。日本の交通機関の時間の正確さは、世界中から評価されている特徴の一つです。

日本では車のクラクションをあまり聞かない

海外では車のクラクションをよく耳にしますが、日本では海外ほどクラクションを聞くことはありません。日本人は相手を尊重し、迷惑をかけたくないと思っている人が多いため、普段はクラクションをあまり鳴らさないのです。

車はバックで駐車する

他の国では、車を駐車するときに前向きに停めることが多いです。しかし、日本では車をバックで駐車する人がたくさんいます。これは、前向きに停めるよりも、バックで停めた方が事故が少なくなるという交通データがあるためです。また、車の前輪が動くため、バックで停める方が実際には簡単だという理由もあります。最初は難しいかもしれませんが、日本で車を運転するなら、バック駐車を試してみてください。

「日本語学習者が受けた授業『これが日本です』」は、いかがでしたか？
今後の動画制作に活かしますので、感想を是非コメント欄から教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

